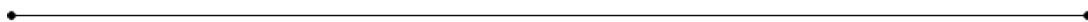




# 資料編



---

## 資料編

---

- 「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成 13 年法律第 154 号）・・・・・・・・・・ 1
- 関係法や計画をめぐる動向 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 「平成 24 年度 子どもの読書活動に関する実態調査結果」（栃木県教育委員会）・・・・・・・・ 3
- 「親学習プログラムアレンジ版」（栃木県教育委員会 平成 21 年 3 月）抜粋  
「第 5 章 読書のすすめ」よりプログラム紹介・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 「子どもの頃の読書活動は、豊かな人生への第一歩」（国立青少年教育振興機構）・・・・・・・・ 10  
※子どもの読書活動の実態とその影響・効果に関する調査研究 報告書概要版リーフレット
- 「栃木県子どもの読書活動推進計画」策定部会 設置要綱・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 「栃木県子どもの読書活動推進計画」策定部会委員名簿 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

## 「子どもの読書活動の推進に関する法律」(平成13年法律第154号)

### (目的)

第一条 この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に推進し、もって子どもの健全な成長に資することを目的とする。

### (基本理念)

第二条 子ども(おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。)の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

### (国の責務)

第三条 国は、前条の基本理念(以下「基本理念」という。)にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

### (地方公共団体の責務)

第四条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

### (事業者の努力)

第五条 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健全な成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

### (保護者の役割)

第六条 父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

### (関係機関等との連携強化)

第七条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

### (子どもの読書活動推進基本計画)

第八条 政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的計画(以下「子どもの読書活動推進基本計画」という。)を策定しなければならない。

2 政府は、子どもの読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

3 前項の規定は、子どもの読書活動推進基本計画の変更について準用する。

### (都道府県子ども読書活動推進計画等)

第九条 都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画(以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。)を策定するよう努めなければならない。

2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画(都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画)を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画(以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。)を策定するよう努めなければならない。

3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。

4 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

### (子ども読書の日)

第十条 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

2 子ども読書の日は、四月二十三日とする。

3 国及び地方公共団体は、子ども読書の日 of の趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

### (財政上の措置等)

第十一条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

### 附則

この法律は、公布の日から施行する。

### ○ 衆議院文部科学委員会における附帯決議

政府は、本法施行に当たり、次の事項について配慮すべきである。

一 本法は、子どもの自主的な読書活動が推進されるよう必要な施策を講じて環境を整備していくものであり、行政が不当に干渉することのないようにすること。

二 民意を反映し、子ども読書活動推進基本計画を速やかに策定し、子どもの読書活動の推進に関する施策の確立とその具体化に努めること。

三 子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、本と親しみ、本を楽しむことができる環境づくりのため、学校図書館、公共図書館等の整備充実に努めること。

四 学校図書館、公共図書館等が図書を購入するに当たっては、その自主性を尊重すること。

五 子どもの健全な成長に資する書籍等については、事業者がそれぞれの自主的判断に基づき提供に努めるようにすること。

六 国及び地方公共団体は、子ども読書の日 of の趣旨にふさわしい事業への子どもへの参加については、その自主性を尊重すること。

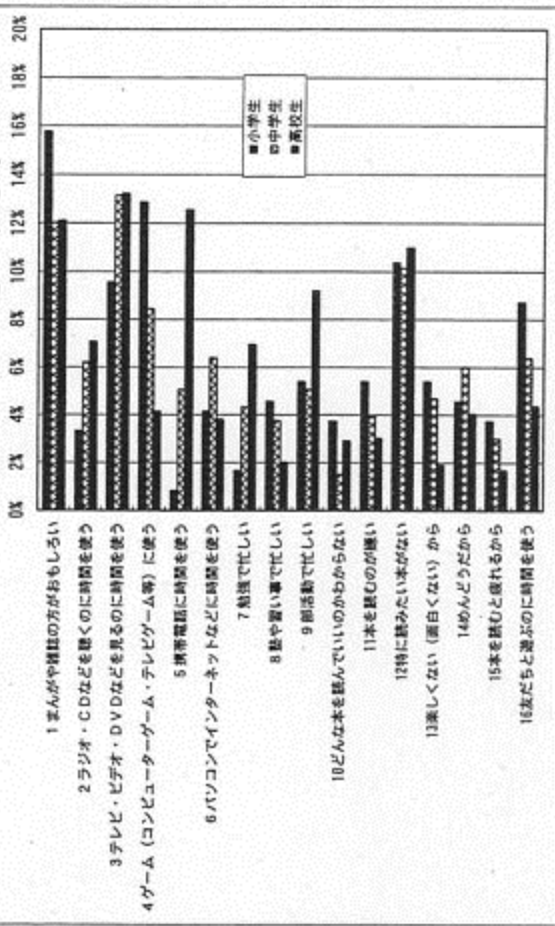
## 関係法や計画をめぐる動向

年月		国の動向	栃木県の動向
H13	3月		「とちぎ教育振興ビジョン」策定 「栃木県生涯学習推進計画三期計画」策定
	12月	子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年法律第154号）公布・施行	
H14	4月	「学校図書館図書整備5か年計画」策定	
	8月	「子どもの読書活動の推進に関する基本計画」閣議決定	
H15	1月	「学校図書館司書教諭の発令について（通知）」（文部科学省）	
H16	2月	文化審議会答申「これからの時代に求められる国語力について」	「栃木県子どもの読書活動推進計画」策定
H17	7月	文字・活字文化振興法（平成17年法律第91号）公布・施行	
H18	3月		「とちぎ教育振興ビジョン（第二期計画）」策定
	4月	「独立行政法人国立青少年教育振興機構」発足	
	12月	教育基本法改正（平成18年法律第120号）	
H19	6月	学校教育法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、教育職員免許法、教育公務員特例法改正（平成19年法律第98号）	
H20	3月	「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第二次）」閣議決定	
	6月	衆議院・参議院「国民読書年に関する決議」（決議第2号）	
	7月	「教育振興基本計画」閣議決定	
	11月	「国民読書年推進会議」発足 「図書館法」改正	
H21	3月		「栃木県子どもの読書活動推進計画（第二期）」策定
H22	7月	国民読書年 「国民の読書推進に関する協力者会議」発足	
H23	3月		「とちぎ教育振興ビジョン（第三期計画）」策定 「栃木県生涯学習推進計画四期計画」策定
	9月	「国民の読書推進に関する協力者会議」報告書公表	
H24	12月	「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」改正	
H25	5月	「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第三次）」閣議決定	
H26	3月		「栃木県子どもの読書活動推進計画（第三期）」策定

## 2 本を読まない理由

小学生、中学生、高校生ともまんがや雑誌への関心が高かったり、テレビ・ラジオ・DVDなどを見るのに時間を費やす傾向が強くなっている。また、ゲームに時間を費やす割合は年齢が高くなるにつれ低くなっている。一方、携帯電話に時間を費やす割合は年齢が高くなるにつれ高くなっている。

### 2 あなたが本を読まない理由は何ですか。いくつでも選んでください。



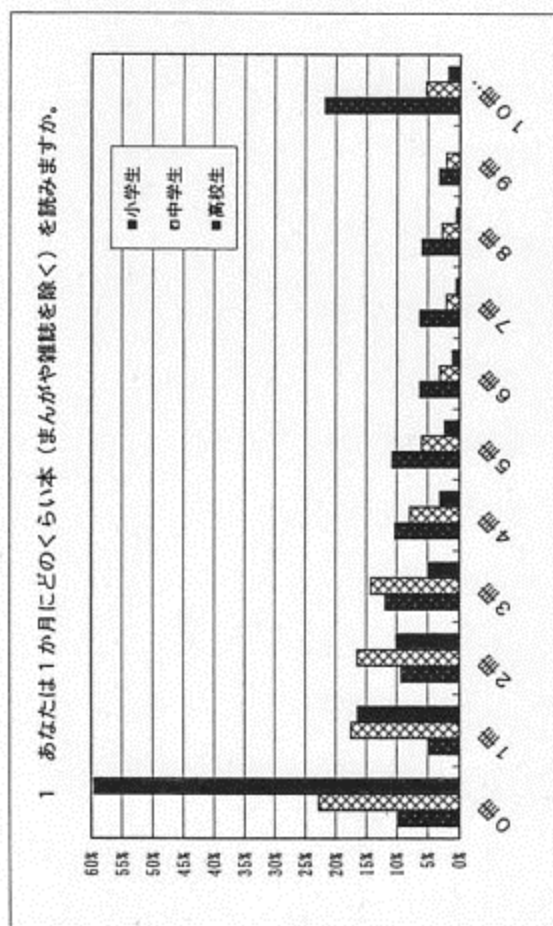
	小学生		中学生		高校生	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1 まんがや雑誌の方がおもしろい	38	15.8%	64	12.0%	108	12.1%
2 ラジオ・CDなどを聴くのに時間を使う	8	3.3%	33	6.2%	63	7.1%
3 テレビ・ビデオ・DVDなどを見るのに時間を使う	23	9.5%	70	13.1%	118	13.2%
4 ゲーム（コンピュータゲーム・テレビゲーム等）を使う	31	12.9%	45	8.4%	37	4.1%
5 携帯電話に時間を使う	2	0.8%	27	5.1%	112	12.6%
6 パソコンでインターネットなどに時間を使う	10	4.1%	34	6.4%	34	3.8%
7 勉強で忙しい	4	1.7%	23	4.3%	62	7.0%
8 塾や習い事で忙しい	11	4.6%	20	3.8%	18	2.0%
9 部活動で忙しい	13	5.4%	27	5.1%	82	9.2%
10 どんな本を読んでもいいのかわからない	9	3.7%	8	1.5%	26	2.9%
11 本を読むのが嫌い	13	5.4%	21	3.9%	27	3.0%
12 特に読みたい本がない	25	10.4%	54	10.1%	98	11.0%
13 楽しくない（面白くない）から	13	5.4%	25	4.7%	17	1.9%
14 暇な時間がない	11	4.6%	32	6.0%	36	4.0%
15 本を読むと疲れるから	9	3.7%	16	3.0%	15	1.7%
16 友だちと遊ぶのに時間を使う	21	8.7%	34	6.4%	39	4.4%
計	241	100.0%	533	100.0%	892	100.0%

## 平成24年度子ども読書活動に関する実態調査結果

実施時期	平成25年1月
調査対象	小学校 県内20校の5年生の1クラスずつ 中学校 県内20校の2年生の1クラスずつ 高等学校 県内16校の2年生の1クラスずつ
調査対象者数	小学生 642名、中学生 588名、高校生 566名

### 1 1か月の読書量（朝の読書など学校の読書活動で読んでいる本も含む）

1か月の読書量を比較すると、全体として学齢が上がるごとに本を読まない者の割合が高くなる傾向がある。特に、高校生でほとんど読まない者の割合が高い。



### 1か月の平均読書量

小学生	7.85冊
中学生	3.73冊
高校生	1.28冊

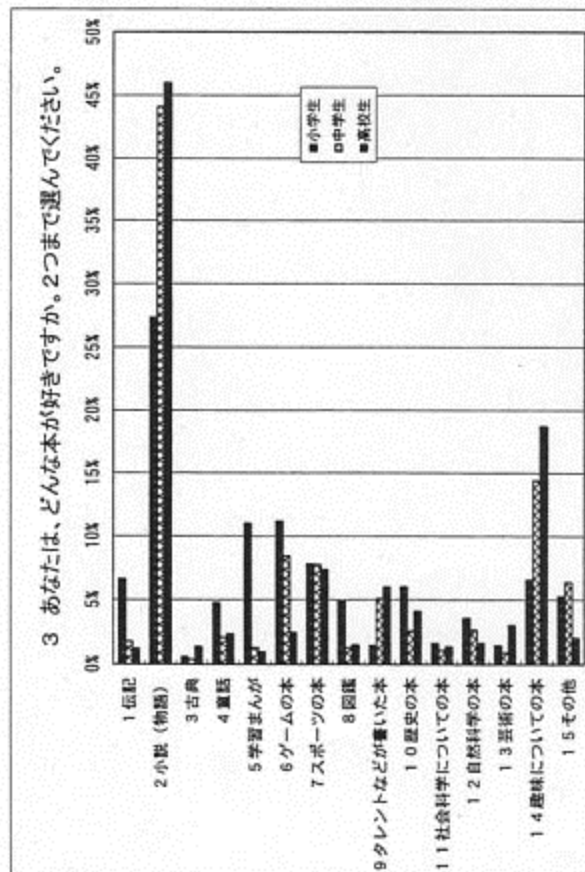
	0冊	1冊	2冊	3冊	4冊	5冊	6冊	7冊	8冊	9冊	10冊以上	計
小学生	63	31	59	76	66	69	40	40	38	20	140	642
(割合)	9.8%	4.8%	9.2%	11.8%	10.3%	10.7%	6.2%	6.2%	5.9%	3.1%	21.8%	100.0%
中学生	134	103	97	84	46	35	18	12	16	12	31	588
(割合)	22.8%	17.5%	16.5%	14.3%	7.8%	6.0%	3.1%	2.0%	2.7%	2.0%	5.3%	100.0%
高校生	337	93	57	27	17	13	6	3	3	0	10	566
(割合)	59.5%	16.4%	10.1%	4.8%	3.0%	2.3%	1.1%	0.5%	0.5%	0.0%	1.8%	100.0%

※「ほとんど読まない」を「0冊」とした。



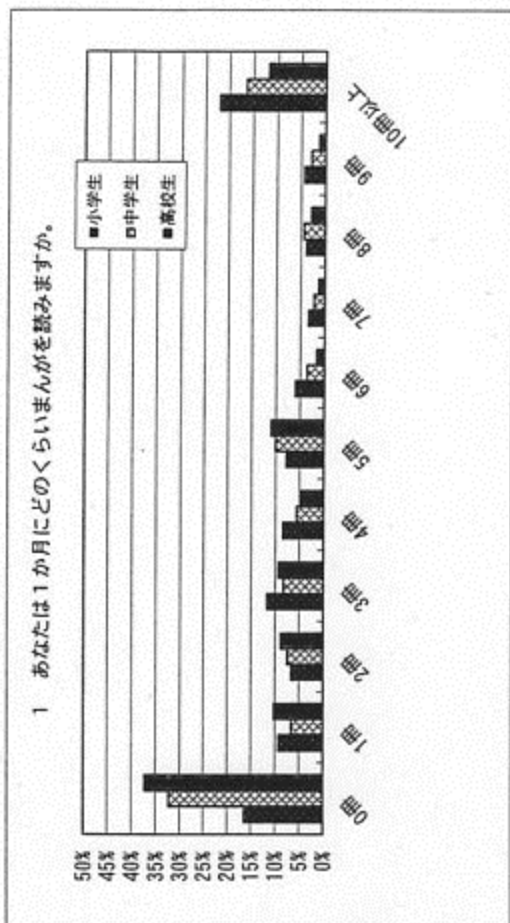
### 3 本の嗜好

小学生、中学生、高校生とも小説(物語)、趣味についての本が好きと答えた割合が高く、特に、小説(物語)については、中学生が44.1%、高校生が46.0%と高くなっている。



### 4 1か月の平均読書量(まんが)

1か月の読書量(まんがや雑誌を除く)と比較すると、中学生は読む冊数が多い。ほとんども読まない者の割合は本の読書量と同様、学齢が上がるごとに増加している。



### 1か月の平均読書量

小学生	8.70冊
中学生	6.06冊
高校生	4.48冊

	0冊	1冊	2冊	3冊	4冊	5冊	6冊	7冊	8冊	9冊	10冊以上	計
小学生	98	63	66	46	37	55	25	25	32	28	163	638
(割合)	15.3%	9.8%	10.3%	7.2%	5.8%	8.6%	3.9%	3.9%	5.0%	4.4%	25.4%	100.0%
中学生	190	39	44	49	33	59	21	13	26	17	97	588
(割合)	32.3%	6.6%	7.5%	8.3%	5.6%	10.0%	3.6%	2.2%	4.4%	2.9%	16.5%	100.0%
高校生	211	58	50	53	26	62	9	7	16	7	67	566
(割合)	37.3%	10.2%	8.8%	9.4%	4.6%	11.0%	1.6%	1.2%	2.8%	1.2%	11.8%	100.0%

※「ほとんど読まない」を「0冊」とした。

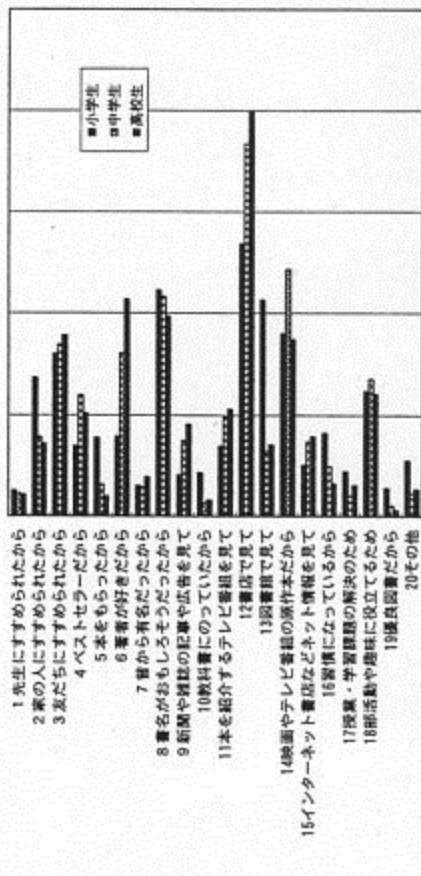
### 15その他の内訳

【小学生】マンガ(27)・ギャグマンガ・よんこまん・マンガ・PC本・哲学・図解本・ストーリー・料理(4)、スイーツの作り方の本・化学・映画などの原作・ドラマの本・動物についての本・こけし・絵・占いの本・戦争の本・ノンフィクション(2)・付録付きの本・シリーズの本・辞典・たんでい

【中学生】テレビでやっていた漫画の本  
 ・しんぱん(2)・マンガ(16)・映画やドラマの原作(2)・雑誌・特撮・アニメ(2)・ミステリー(2)・ミステリー・ライトノベル(6)・専門雑誌・絵本・雑誌・文学・人生についての本・恋愛・面白そうな本  
 ・ウーティ小説(4)・曲からノベル化された本・車・読まない・いろいろ・パズルに関する本・恋愛の本・どんな本でも読む

【高校生】  
 ・雑誌・絵本・著名人の生涯・特異・料理・ラノベ・心理学系・マンガ・哲学・ほぼすべて・参考書・ケータイ小説・占い・オカルト・旅日記

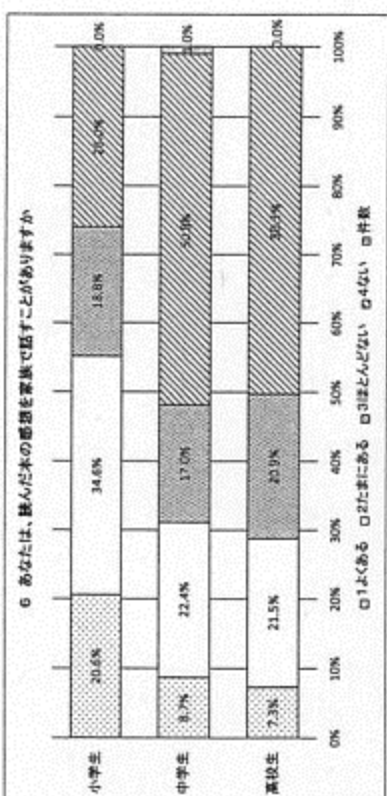
小学生、中学生、高校生とも「書店で見て」と答えた割合が高く、次いで小学生、中学生では「書店がおもしろかったから」、「映画テレビ番組の原作本だから」、高校生では「著者が好きだから」と答えた割合が高い。

[illegible]

	小学生		中学生		高校生	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
先生にすすめられたから	28	1.4%	16	0.9%	29	1.8%
家の人にすすめられたから	159	7.6%	49	2.8%	48	3.0%
まだだちにすすめられたから	153	7.4%	179	10.1%	116	7.3%
ベストセラーだから	88	4.3%	105	5.9%	92	5.8%
本をもったから	74	3.6%	29	1.6%	18	1.1%
著者が好きだから	69	3.4%	133	7.5%	202	12.7%
昔から有名だったから	36	1.8%	22	1.2%	36	2.3%
書名がおもしろそうだったから	239	11.6%	205	11.6%	170	10.7%
新聞や雑誌の記事や広告を見て	52	2.5%	64	3.6%	75	4.7%
0数科目にのっていたから	37	1.8%	6	0.3%	23	1.4%
1本を紹介するテレビ番組を見て	69	3.4%	71	4.0%	98	6.1%
2書店で見て	260	13.0%	333	18.8%	272	17.1%
図書館で見て	197	9.6%	68	3.8%	75	4.7%
映画やテレビ番組の原作本だから	186	9.1%	211	11.9%	129	8.1%
有名タレント書店などが情報をえて	59	2.9%	72	4.1%	69	4.3%
お友達になつていろいろ	68	3.3%	54	3.1%	26	1.6%
1冊を、学習に役立てるため	71	3.5%	14	0.8%	16	1.0%
部活動や趣味に役立てるため	107	5.2%	99	5.6%	79	5.0%
学校の図書だから	30	1.5%	10	0.6%	8	0.5%
その他の	56	2.7%	29	1.6%	14	0.9%
計	2055	100.0%	1769	100.0%	1715	100.0%

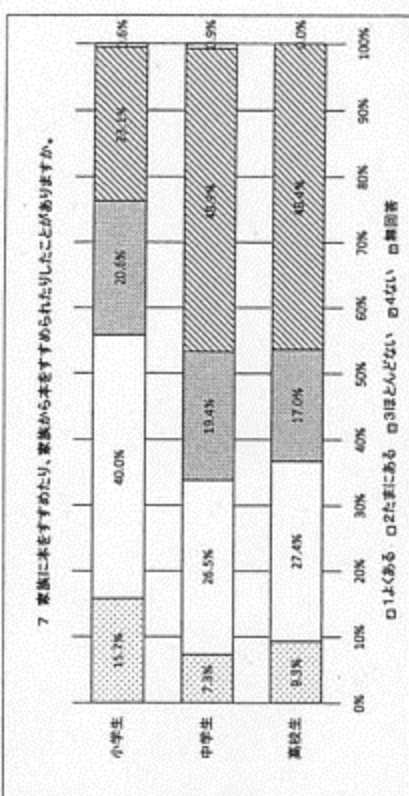
[illegible]

小学生では半数以上が本の感想を家族で話すことがあるが、年齢があがるにつれその割合が低下する。



	1よくある		2たまにある		3ほとんどない		4ない		無回答	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合		
小学生	132	20.6%	222	34.6%	121	18.6%	167	26.0%	0	0.0%
中学生	51	8.7%	132	22.4%	100	17.0%	259	50.9%	6	1.0%
高校生	40	7.3%	118	21.6%	115	20.9%	276	50.3%	0	0.0%

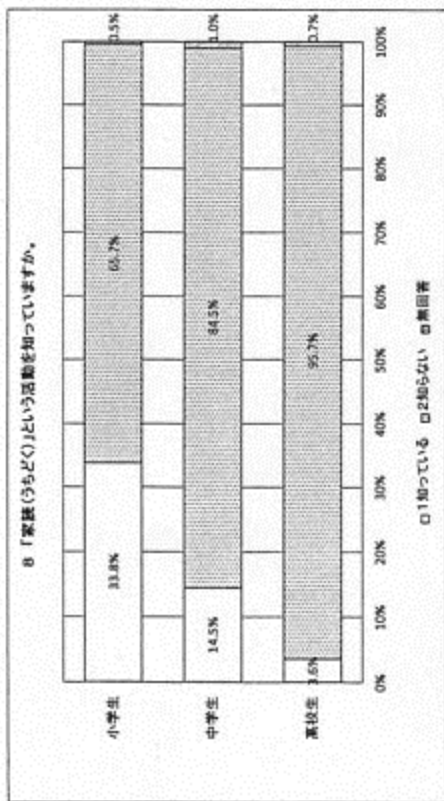
小学生では半数以上が家族で本をすすめることがあるが、年齢があがるにつれその割合が低下する。



	1 よくある		2 たまにある		3 ほとんどない		4 ない		無回答	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合		
小学生	101	15.7%	257	40.0%	132	20.6%	148	23.1%	4	0.0%
中学生	43	7.3%	156	26.5%	114	19.4%	270	45.5%	5	0.9%
高校生	51	9.3%	150	27.4%	93	17.0%	256	46.4%	0	0.0%

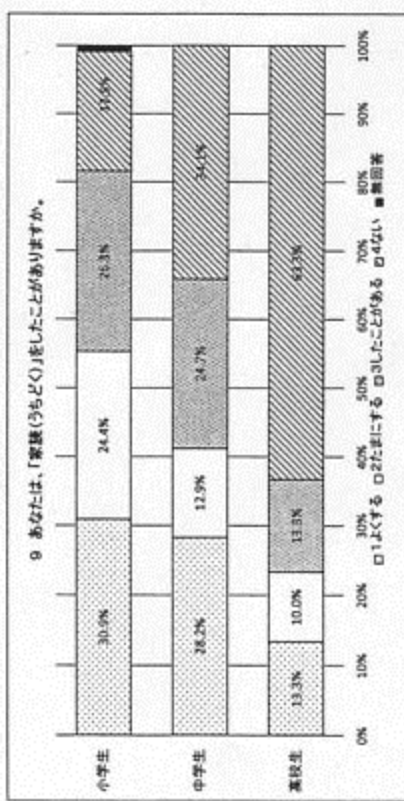
8 「家族（うちどく）」を知っているか

家族で読んで本について話したり、家族で本をすめあたりするなど、「家族（うちどく）」に相当する活動が行われている割合に比べ、「家族」という用語の認知度は低い。



	1 知っている		2 知らない		無回答	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
小学生	217	33.8%	422	65.7%	3	0.5%
中学生	85	14.5%	497	84.5%	6	1.0%
高校生	20	3.6%	531	95.7%	4	0.7%

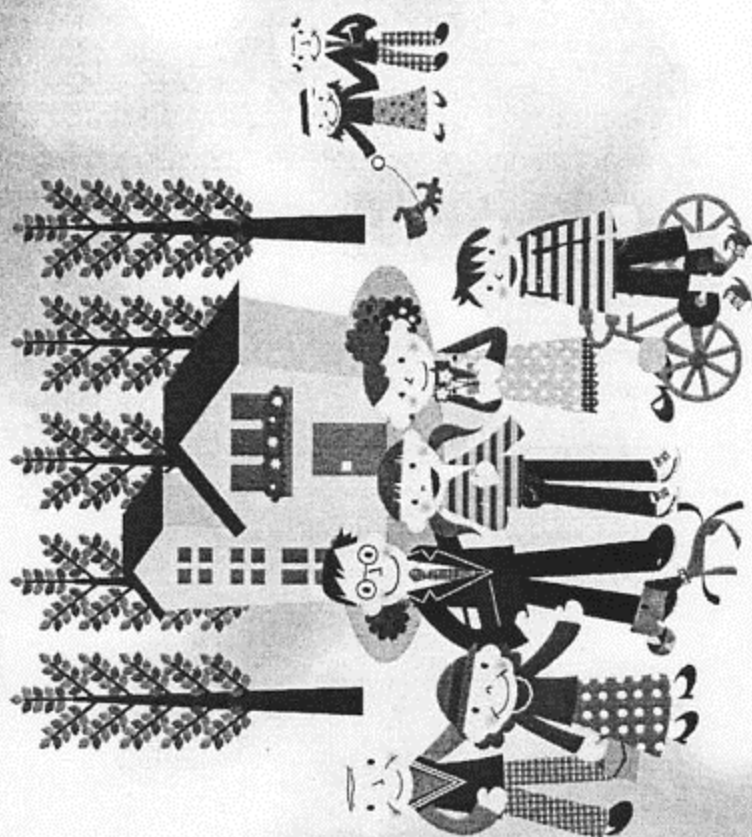
9 「家族（うちどく）」を知っていると同答した者の実施率  
「家族（うちどく）」を知っていると答えた者のうち、小学生は8割以上が、中学生は6割以上が、高校生は4割以上が「家族（うちどく）」を知っていると回答している。



	1 知っている		2 知らない		無回答	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
小学生	67	30.9%	53	24.4%	38	17.5%
中学生	24	13.3%	11	10.0%	29	34.1%
高校生	4	13.3%	3	10.0%	19	63.3%



# 親子学習プログラム アレンジ版



とちぎ家庭教育支援事業運営協議会  
栃木県教育委員会

保護者専用

家庭教育ホットライン

028 (665) 7867

保護者の皆さん!

お子さんの  
育児、子育て、しつけ等家庭教育のこと、  
学習や進路、不登校や学校生活のこと、  
友達、異性、いじめ等人間関係のことなど、  
困っていること、悩んでいることはありますか?

栃木県教育委員会

ホット  
電話相談



相談は絶対にやりませう  
一人で悩まず  
気軽に相談ください

子ども専用

いじめ相談 さわやかライン

しあわせを求めて コミュニケーション

028 (665) 9999

保護者・子ども

メール相談

<http://www.hothotmail.jp>

<http://www.hothotmail.jp/m.html>

県民局

毎月第3日曜日は

ふれあい育む「家庭の日」

家庭は、青少年が順やかな成長の強い影響を受け、基本的な生活習慣や社会における規範意識の基礎を身につけるなど人間形成に大きな役割を担う場です。

## テーマ

# 不思議な力があるのかな？絵本の読み聞かせ

## ー これでバッチリ、3歳児健診 ー

V-1

**ねらい** 子どもに対する読み聞かせの大切さを感じ、自分の子育てに取り入れようとするきっかけとする。

**対象** 乳幼児の子どもを持つ保護者

**展開** エピソード1



今日は、たくや君の3歳の健診日です。母親の夏美子さんはたくや君と手をつないで、町の保健センターに向かいました。

母：「たっくん、泣かないでがんばろうね。」

たくや：「うん、だいじょうぶ。」と、2人はニコニコ話していました。

ところが保健センターに着くと、子どもたちの泣き声が聞こえてきました。たくや君もちらちらと不安になってきたのか、笑顔が消えてしまいました。

母：「たっくん、怖いことはないから大丈夫だよ。」

たくや：「うん。」と、答えたものの目から涙がこぼれそうになっていました。

母：「たっくん、お母さんがこの絵本読んであげるね。」

たくや：「読んで。」

たくや君は、家でお母さんに読み聞かせをしてもらっているのでも絵本が大好きでした。絵本が読み終わる頃には笑顔が戻り、泣かずに健診を受けることができました。

たくや：「ママ、泣かなくなった。おうちで、読んで。」

母：「そうね。何の絵本がいいかな。」

2人はニコニコ話しながら、家に帰りました。

**ワーク1**

エピソードを読んで次のことについて話し合います。

(1) お母さんは泣きそうになっているたくや君をどんな気持ちで見ているでしょう。

(2) 絵本を読んでもらっているたくや君は、どんな気持ちでしょう。

**ワーク2**

家での読み聞かせのとき、お母さんはどんな思いで本を読んでいるか話し合います。話し合いが終わったら、資料を見て、他にどんな思いがあるのか確認しましょう。(資料編P48参照)

**ワーク3**

絵本の読み聞かせのよさを話し合います。

**ワーク4**

自分の生活をふりかえり、読み聞かせができそうな時間を見つけてみましょう。

**活用のポイント**

- 展開する際におきたいポイント
  - ・お母さんの絵本の読み聞かせによって、たくや君が絵本好きになることを押さえます。
  - ・ワーク2がポイントです。絵本の読み聞かせをしているお母さんの思いを考えると、読み聞かせの良さを感じることがつなげられます。時間をかけて実施しましょう。
- アレンジアドバイス
  - ・時間がないときは、ワーク1(1)は省略してもよいでしょう。
  - ・ワーク2、ワーク3を合わせて、お母さんの思いと読み聞かせのよさを関連づけて考えることで時間が短縮できます。

## テーマ

# 絵本の読み聞かせ、どうしたらいいの？

## ー 絵本はこころの栄養・絵本には魔法の力 ー

V-2

**ねらい** 絵本の読み聞かせは、子どもとのコミュニケーションを育むひとつの方法です。参加者同士、読み聞かせについての情報を交換したり、親子で絵本の楽しさを一緒に体験するきっかけとする。



**対象** 0歳から小学校低学年の子どもとその保護者

**展開** エピソード1

私は10ヶ月の女の子と4歳の男の子を持つ母親です。

自分も夫も子どもの頃、親に絵本を読んでもらったことがないので、「子どもにも絵本を読んであげて」と言われても、何をどう読んだらよいのかよくわかりません。それに何か照れくさくて……。また、毎日が忙しくて、絵本を読む心のゆとりがないということもあります。

つい、「静かに見ているし、子どもも喜ぶから」という理由で、テレビの子ども向け番組やビデオを見せることが多くなっていました。良い内容であれば、ここから言葉だって覚えられ、勉強にもなりますよね。

そんな時、上の子の初めての保育参観がありました。そこで私は、先生が読む絵本をうちの子も一緒に聞いている姿を目にしました。家では全く読んであげていないのに、先生に「まさしく絵本が好きですね。家でもお母さんとお父さんが読んであげてほしいです。私が読み始めると、いつも一冊前まで読んでいますよ。」と言われ驚きました。

先生に「読んであげたい」と思っていたのですが、どうしたらいいのかわからなくて、皆さんは絵本の読み聞かせをどのようにしていますか。情報をいただけないでしょうか。

～ある保護者の相談より～

**ワーク1** ある保護者の相談を読んで感じたことを話し合います。

**ワーク2**

絵本の読み聞かせについて、情報を交換しましょう。

(例) いっ、だれが、どのような本・子どもの反応・読み聞かせの形態 等

(読み聞かせの形態：子どもを抱っこして・子どもと向かい合って・子どもの横で等)

**ワーク3**

下記のAかBを選択し、絵本を楽しみ、感想を話し合います。

A：お父さん、お母さんがお子さんに絵本を読んであげました。

B：アザリテーターが、お子さんに絵本を読みます。お父さん、お母さんも一緒に絵本を楽しみましょう。

**活用のポイント**

- 展開する際におきたいポイント
  - ・子どもの発達段階に応じた絵本を提供しましょう。なお、ワーク3でAを実施する場合は、参加する親子の絵本の準備が必要となります。
  - ・子どもが他の遊びに夢中になっている場合は、読み聞かせは無理強いしないようにしましょう。なお、保護者の方々は、読み聞かせの場、お子さんの様子や表情を観察しながら絵本を楽しみたいことを伝えましょう。
  - ・絵本の読み聞かせに特別なルールはありませんが、「いいね!」は心づきや「はーい」を心づけると、読み手の気持ちも落ちつき、聞き手も落ち着いた気分になれるでしょう。
  - ・参加する子どもの年齢によって状況やポイントが必要となることもあります。
  - ・読み聞かせボランティアと連携して実施することも可能です。
- アレンジアドバイス
  - ・時間がない時は、ワーク1は省略してもよいでしょう。

テーマ

## 子どもへの読み聞かせについて考えよう

### 一本の読み聞かせで、小学校入学も安心

V-3

ねらい

子どもの心の不安を軽減する手段として、親の読み聞かせがあることに気づくとともに、家庭での実践化に向けてのきっかけとする。

対象

就学時健診を受ける子どもを持つ保護者  
(幼児から小学校低学年の子どもを持つ保護者)

展開



#### エピソード①

今年の春、小学校に入学したあきお君。入学したばかりはストレスがあるのでしょうか？おねしょが頻繁になりました。家庭でも、できるだけストレスがたたまらないように、小学校の様子を聞いた、友だちを家庭に呼んだりして、友だちの輪を広げるようにしました。また、夜寝るときには、必ずトイレに行くようにさせました。しかし、いっしょに治まりませんでした。お母さんは、お父さんと相談してあきお君が幼稚園のときにやっていた、寝る前の読み聞かせを再開することにしました。するとあきお君は、読み聞かせのあとには、ニコニコして眠りにつきました。1カ月を過ぎた頃から、あきお君のおねしょの回数が少しずつ減り、表情が明るくなってきました。お父さんとお母さんは、寝る前の読み聞かせによって、あきお君が安心して眠りにつくようになったと感じています。

ワーク1

エピソードを読んで次のことについて話し合います。

- (1) 入学したあきお君は、どんな不安を抱えているでしょう。
- (2) お父さん、お母さんはどんな思いで読み聞かせを再開したでしょう。
- (3) ニコニコしてねむりにつくとき、あきお君はどんな気持ちでしょう。(資料編P49参照)

ワーク2

入学間もない児童にとって、読み聞かせのよさは何かを話し合います。

ワーク3

子どもを入学させたときを想像し、読み聞かせができそうな時間を見つけてみましょう。

活用のポイント

- 展開する際に押さえておきたいこと
  - ・寝る前の読み聞かせによって、あきお君がニコニコ眠りにつくようになったことを押さえるようにしましょう。
  - ・ワーク1(2)、(3)がポイントです。お父さん、お母さんの気持ちと、ニコニコ眠りにつくときのあきお君の気持ちを考えることが、読み聞かせのよさを感じることに繋がります。
  - ・ワーク2では、親子のふれあいやコミュニケーションにまで話し合いが進むようにしましょう。
- アレンジアドバイス
  - ・時間がないときは、ワーク1(1)は省略してもよいでしょう。
  - ・ワーク1(2)と(3)を含ませて実施することもできます。
  - ・読み聞かせの方法を学ぶ機会を設定すれば、より実践化につながります。

テーマ

## 家庭で読書をすすめてみませんか！

### 一本によるコミュニケーション

V-4

ねらい

読書の大切さに気づき、これから家族で読書を生活の中に取り入れるきっかけとする。

対象

小・中学生の子どもを持つ保護者

展開



#### エピソード① ① 家で一番本を読んでいるのは誰？

★全員：「おれ、おれ！ わたし、わたし！」  
 Aくん：「うちは家族みんな本が好きだよ」  
 Bくん：「うちは全員じゃない！ お父さんはダメ！」  
 Cくん：「そうそう。うちも読書はお父さん！」  
 Dさん：「へー、うちのお父さんは『うちどく』を読めるよ、仕事をしていてもやめてくれるよ。だから、家族みんなで同じ本を読んだりしてる。」  
 Aくん：「ほくの家もお父さんが早く帰ってきたら一緒にやる。本を読んだあとのお父さんとのお話が好きだよ。」  
 Bくん：「お父さんを『うちどく』に読ませたら、スポーツ番組がないとさき進めばいいのがある。」  
 Dさん：「私は親から読ませてほしい。」  
 Fさん：「私も」  
 Bくん：「そうだね。子どもから読んでも、忙しいって書かれそう。」  
 ～地域ぐるみで読書を推進している佐賀県伊万里市の子どもたちの「うちどく(家読)」についての子ども会議の中から(抜粋)～

ワーク1

エピソードを読んで、感じたことや思ったことを自由に話し合います。

ワーク2

資料(グラフ)を見て、感じたことや気づいたことについて話し合います。  
(資料編P50資料2,3参照)

ワーク3

読書をすすめるために、家庭でどのようなことができるかを考え、話し合います。

活用のポイント

- 展開する際に押さえておきたいポイント
  - ・「うちどく(家読)」について、説明をします。
  - ※「うちどく」とは、家庭での読書活動を推進しているもので、本を通じて、家庭内でのコミュニケーションづくりが役立っています。
  - ・エピソードやグラフから、読書の大切さを押さえて、家庭での子育ての一環として読書を導入するきっかけとしましょう。無理のない範囲で読書を少しずつ取り入れることが大切です。
- アレンジアドバイス
  - ・時間が限られているときは、ワーク1と2を一緒に展開してもよいでしょう。(一緒に扱った方が効果的な場合もあります。)
  - ・時間にゆとりがある場合には、子ども会議の続きを紹介するのもよいでしょう。
  - ・資料編(P51資料4)にも、もう一つの子どもの会議の記録があります。目的や対象に応じて活用してください。



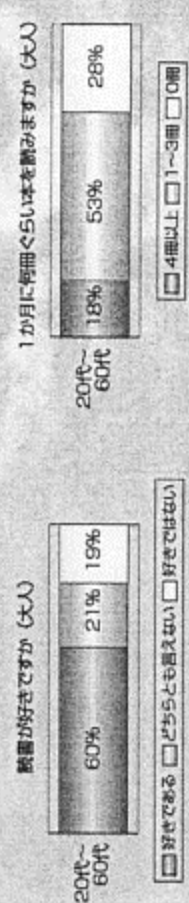
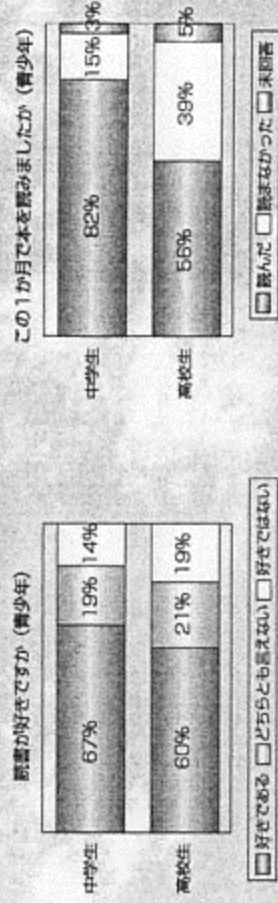
# 子どもの頃の読書は豊かな人生への第一歩 ～読書好きの子どもは積極的～



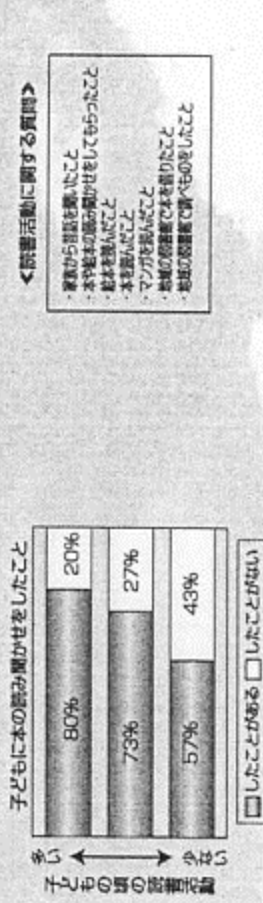
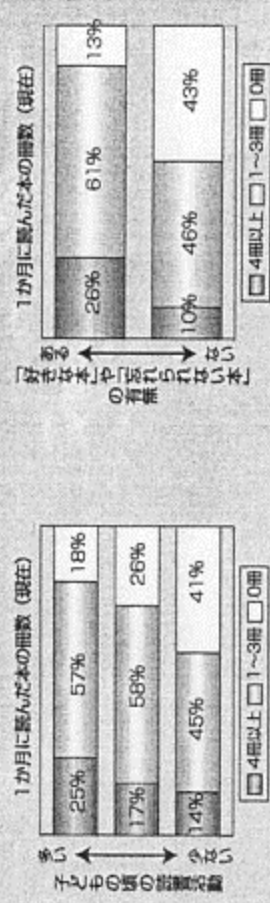
 National Institution For Youth Education  
独立行政法人 国立青少年教育振興機構

## 多くの中高生や大人は、読書が好きです

多くの中学生や高校生は、読書が好き、この1か月で本を読んだと回答しています。また、多くの大人も読書が好き、1か月に1冊以上本を読んでいると回答しています。

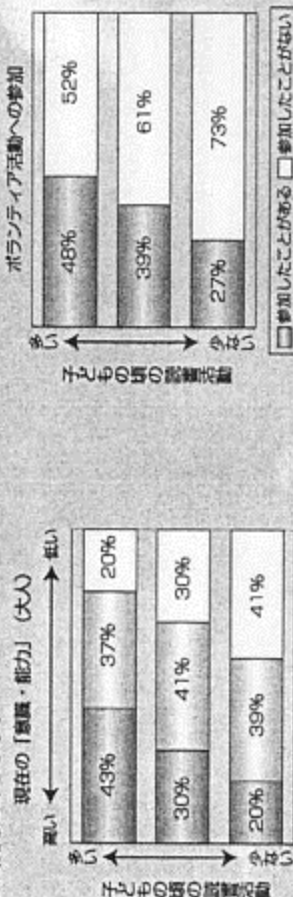


子どもの頃 (就学前から中学時代) に読書活動が多かった大人や、これまでに「好きな本」や「忘れられない本」があると回答した大人は、1か月に読む本の冊数が多い傾向があるとともに、子どもに読み聞かせをするなど、読書活動をおしの子どもの関わりが多いこともわかりました。



# 子どもの頃の読書は、人生を豊かにします

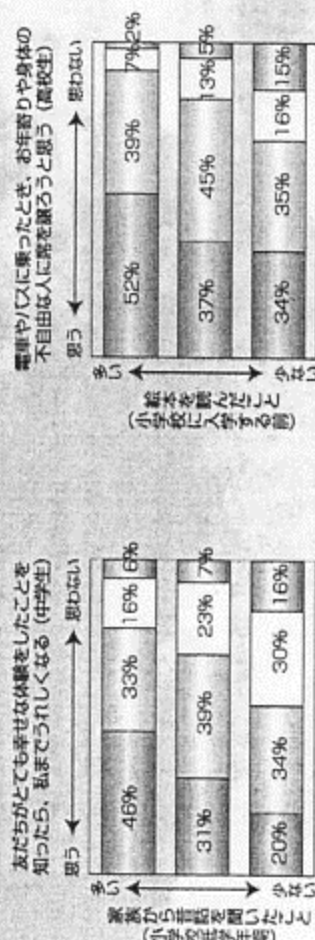
子どもの頃の読書活動が多い大人ほど、未来志向や社会性などの「意識・能力」が高いことがわかりました。また、子どもの頃の読書活動が多い大人ほど、ボランティア活動に参加している人が多い傾向にあります。



＜「意識・能力」に関する質問項目例＞

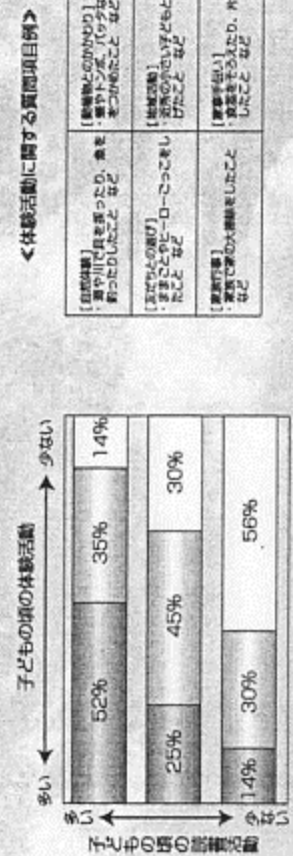
意識・能力	質問項目
未来志向	「将来、社会や人のために働く仕事したい」と思う など
社会性	「他人の意見を受け入れる」と思う など
読書活動	「読書が自分の能力を高めるために、学習や能力開発に役立ちたい」と思う など
読書活動	「読書が自分の心を豊かにしてくれる」と思う など
読書活動	「読書が自分の知識を深めるのに役立つ」と思う など
読書活動	「読書が自分の想像力を高めるのに役立つ」と思う など
読書活動	「読書が自分の語彙を増やすのに役立つ」と思う など
読書活動	「読書が自分の読解力を高めるのに役立つ」と思う など
読書活動	「読書が自分の読書習慣を身につけるのに役立つ」と思う など
読書活動	「読書が自分の読書態度を高めるのに役立つ」と思う など

また、大人と同様に、子どもの頃(就学前から中学時代)の読書活動が多い中学生や高校生ほど、現在の「意識・能力」が高いことがわかりました。例えば、小学校に入学する前や低学年に読書活動が多かった中学生や高校生は、人を思いやる気持ちや社会のルールを守る意識などの能力が高い傾向にあります。

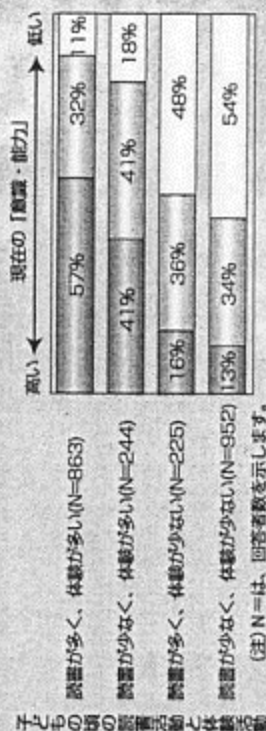


# 読書と一緒に体験も大切です

子どもの頃に読書活動が多く経験した大人は、同時に子どもの頃の体験活動も多く経験している傾向があります。



また、子どもの頃に読書活動と体験活動の両方とも多く経験した大人ほど、大人になってからの「意識・能力」が高いことがわかりました。読書活動も体験活動も両方行うことが大切です。



国立青少年教育振興機構では、「子どもの読書活動と人材育成に関する調査研究会」を設置し、成人の読書活動の実態や現在の意識・能力、さらには、子ども(特に中高生)の読書活動の実態や現在の意識・能力を把握し、子どもの読書活動の推進に資する資料を収集することを目的とした調査を実施しました。

これまで、民間団体等で読書活動の実態に関する調査は行われていましたが、当機構では、子どもの頃の読書活動が、成長してから意識・能力に及ぼす影響や効果などについて初めて調査を実施したところです。

調査の詳細情報は当機構ホームページをご覧ください。(http://www.niye.go.jp/kenkyu\_houkoku/contents/detail/172/)



National Institution For Youth Education  
国立青少年教育振興機構

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号  
青少年教育研究センター/総務企画部調査・広報課  
http://www.niye.go.jp TEL 03-6407-7742



「栃木県子ども読書活動推進計画」策定部会 設置要綱

(設置)

第1条 「栃木県子ども読書活動推進協議会」(以下「協議会」)設置要綱第6条に基づき、「栃木県子ども読書活動推進計画」の改定及び計画に基づく施策について、必要な事項を検討するため、「栃木県子ども読書活動推進計画(第三期)(仮称)」策定部会(以下「策定部会」という。)を設置する。

(任務)

第2条 策定部会は、次に掲げる事項を検討し、その結果を協議会に報告する。  
(1) 「栃木県子ども読書活動推進計画(第三期)(仮称)」の具体的な内容に関すること。  
(2) 子どもの読書活動推進の施策に関すること。  
(3) その他必要な事項に関すること。

(構成)

第3条 策定部会委員は、次の各号に掲げる者をもって構成し、栃木県教育委員会教育長が委嘱(任命)する。

- (1) 学校教育関係者
- (2) 図書館関係者
- (3) ボランティア等民間団体関係者
- (4) 民間事業者
- (5) 社会教育関係者
- (6) 県行政関係者

2 策定部会に部会長1名及び副部会長1名を置く。

3 部会長及び副部会長は、委員の互選により選出する。

4 部会長は、会務を主宰する。

5 副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故ある時は、その職務を代行する。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱(任命)を受けた日からその日の属する年度末の末日までとする。

(招集等)

第5条 策定部会は、部会長が招集する。

(事務局)

第6条 事務局は、栃木県教育委員会事務局生涯学習課(以下「生涯学習課」という。)に置く。

2 事務局員には生涯学習課の職員をもって充てる。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、策定部会の運営に関して必要な事項は、別に定める。

附則

この要綱は、平成25年7月10日から適用する。

「栃木県子ども読書活動推進計画」策定部会委員名簿

No	選出区分	氏名	役職等	備考
1	学校教育関係者	山口 奈央子	那須塩原市立福村小学校教諭	
2		廣瀬 和代	茂木町立中川中学校教諭	
3		五月女 菊夫	栃木県立栃木高等学校教諭	
4		大嶋 和子	栃木県立宇都宮東高等学校司書(主査)	
5	図書館関係者	片岡 真由美	栃木県立図書館主任	
6		財川 明子	宇都宮市立中央図書館主任	
7	民間団体関係者	小川 範子	栃木子どもの本連絡会副会長	副部会長
8	民間事業者	生澤 雅子	下野新聞社記者	
9	社会教育関係者	池節 子	栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会顧問	部会長
10	県関係者	石井 陽子	県民生活部青少年男女共同参画課課長補佐	
11		斎藤 伸一	保健福祉部こども政策課課長補佐	
12		長 裕之	教育委員会事務局総務課副主幹	
13		齊藤 正幸	教育委員会事務局学校教育課副主幹(小中学校教育担当)	
14		山下 弘男	教育委員会事務局学校教育課指導主事(高等学校教育担当)	
15		村上 善彦	教育委員会事務局特別支援教育室指導主事	
16		小林 己伸	栃木県総合教育センター生涯学習部副主幹	
17		人首 健一	栃木県総合教育センター幼児教育部指導主事	

【事務局】

No	氏名	役職等
1	上田 裕司	教育委員会事務局生涯学習課長
2	佐藤 寿	教育委員会事務局生涯学習課ふれあい学習担当副主幹(GL)
3	丹治 良行	教育委員会事務局生涯学習課ふれあい学習担当副主幹
4	濱野 絵梨子	教育委員会事務局生涯学習課ふれあい学習担当主任